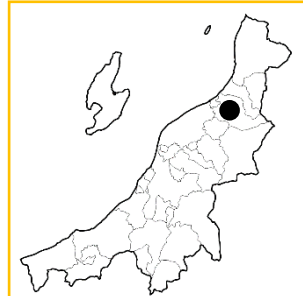




遊休農地を解消して飼料高騰に悩む酪農家とマッチング

「取組のポイント」

- 酪農経営の課題解決のため、遊休農地を自給飼料の栽培地としてあっせん
- 農地バンクと農業委員会の連携で、円滑な経営規模の拡大を支援



新発田市

地区の概要

菅谷地区は、水田作を中心とした中山間地域である。近年は、農業者の高齢化による離農や獣害による意欲減退等が原因とした遊休農地の発生が課題となっている。また、所有者が地域に居住していない場合もあり、農地の適切な維持・管理が課題となっている。

取組の内容

- ① 農業委員会は、地区から離れて暮らす所有者から、農地の維持・管理に係る相談を受け、農地バンクに共有。農地バンク(農地相談員)は、地区担当の農業委員と連携して、周辺農地を利用する農家等を個別訪問し、借り受けに関する意向を確認。
- ② その結果、酪農家が飼料高騰対策として、飼料を自給するため農地の借り受けを希望。農地バンク(農地相談員)は、貸し出しを希望する遊休農地の位置や状況を調査するとともに、酪農家に対し、大型機械の使用等の生産条件を確認するなど出し手、受け手の意向を聴取した上でマッチングを行った。酪農家は、1筆、2,937㎡の農地を(貸借10年間)バンク事業を活用して借り受け。
- ③ この地区は、積雪で遊休農地解消緊急対策事業の工事期間が限られることから、促進計画作成のスケジュールを農業委員会と共有し、7月末までに工事を完了。降雪前の年内に飼料作物(白ヒエ)を収穫できるように調整する等、遊休農地の解消と担い手の円滑な経営規模の拡大を支援。

取組の成果

- 農地バンク事業を活用し、酪農家が希望する飼料作物の栽培条件に適した遊休農地(1筆0.29ha)の解消に繋がる
- 事例が生まれたことで周辺の農地所有者からも協力が得られ、今後計0.6haの農地集積を見込む

【利用者の声:酪農家】

- 農地の連担による面積拡大で、効率的な自給飼料の生産による飼料費低減に期待している。

事業実施前



事業実施後



飼料作物収穫前



遊休農地解消緊急対策事業の概要

面積	0.29 ha
事業費	12.6 万円
工事期間	令和5年6～7月
受け手 (酪農経営者)	酪農/乳牛60頭 農業/水稻22ha(内農地バンク9ha) 酪農と農業を行う循環型農業 新潟県新発田市「なかの牧場」(https://www.nakano-farm.net/)